「日々の理科」（第 1863 号） 2019,-8,15

「8 月 7 日の浅間山の微噴火（７）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

気象警報や火山の噴火警戒レベルは気象庁が発表する。しかし、実際に住民や観光客に対し、避難勧告や避難指示、それに立入規制等の発動を判断するのは、地元の自治体ということになる。

小浅間山は、浅間山の側火山（寄生火山）の一つだ。登山口の駐車場から小一時間で登頂でき、山頂からの眺望も良いので人気のある山だ。写真は小浅間山からの眺望で、眼前に浅間山がそびえ、妙義山、四阿山なども遠望できてすばらしい。

小浅間山の登山口は「軽井沢町長倉」という地名に位置する。8 月 7 日の微々たる噴火で、気象庁が噴火警戒レベルを１から３に上げた為に、軽井沢町が入山禁止とした。小浅間山は、浅間山山頂から半径 4km 以内に位置する為だ。私は山荘に来たお客さんたちと小浅間山に登る予定だったので、大変残念に思った。

車で浅間山山頂から一番近くまで行けるのは、浅間園（火山博物館）である。ここは、今回の噴火の降灰軸の真下と推定され、火山灰の採取も期待できたので、噴火翌日に立ち寄ってみた。なぜか渋滞している。

火山博物館は、辛くも山頂から 4km 圏内なので、立入禁止になっていた。テレビ東京のクルーが、訪ねた人をインタビューしていた。私もこのあと火山灰を採取している時に、インタビューに巻き込まれた。

火山博物館直下からは、浅間山の山頂火口壁がよく見える。今回噴煙を上げたのは、○印の「千トン岩」のあたりだ。千トン岩は、1950 年 9 月の噴火（爆発）で、火口壁に着弾した、巨大な火山岩塊である。